タイトル：2023 年度 教育セミナー（第 19 回）
日時：2023 年 9 月 21 日（木）～24 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

中里桃子（立教大学大学院文学研究科超域文化学専攻　博士前期課程 1 年）

4 日間にわたり、多くの先生方や大学院生の方々と交流し、学ぶ場を設けてくださり、誠にありがとうございました。

今回、私は発表を行いませんでしたが、自分と同じ博士前期課程に所属されている参加者の発表を聞く中で、発表に対する批判的な思考力がきたえられたのではないかと思っています。中東に関する研究とまとめるにしても、さまざまな地域・時代・研究分野の方が数多く参加されており、自分の研究テーマとは異なる発表についての知識不足を痛感しました。特に初日は、ディスカッションの時間での先生方やほかの受講生の質疑応答の鋭さに圧倒されてしまいましたが、皆様の応答を観察していく中で、研究における問題提起とそれに対するアプローチの仕方、そしてそれによってまとめられる結論の一貫性と妥当性が、研究において最重要であると感じました。本年度のセミナーは、受講生の発表人数が多かったこともあり、何度も発表を聞くことで、他人の発表に対して批判的視点をもって聞くことの良い訓練ができたと思っています。また、「人の振り見て我が振り直せ」とはよく言いますが、受講生の皆様が発表に対して先生方や同じ受講生から指摘されていたことを自分の研究に置き換えて考えてみることで、自身の研究を見直すよいきっかけにもなりました。先生方の発表の時間では、現在に至るまでのライフヒストリーを交えての講義では、先生方がそれぞれ全く異なる研究者人生を歩まれていることを非常に興味深く聞かせていただきました。

それと同時に、研究発表とディスカッション以外の時間で、先生方や受講生の皆さんと交流することができたことも、本セミナーに参加した中での大きな収穫の 1 つだと感じています。私は、所属している大学院において、中東に関連した研究を行う学生と関わる機会がほとんどありませんでしたが、休憩時間での会話や情報交換会などを通じて受講生との横のつながりができたことは非常にうれしく思います。交流を通じて、ほかの受講生の言語の習熟度の高さや、中東研究に対する知識の豊富さに驚くと同時に、自身の未熟さを痛感し、よい刺激となったと思っています。

最後になりますが、このような素晴らしいセミナーを開催してくださった AA 研をはじめとする関係者の皆様、ならびに受講生の皆様に厚く御礼申し上げます。